

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		4,689	t-CO ₂
① （温 を 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素排 換算 出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		4,689

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
温室効果ガス 総排出量		t-CO ₂	t-CO ₂	3.0 %

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
原単位当たりの 排出量	0.03127	kg-CO ₂ / 個	0.03033 / 個	3.0 %

(2) 目標設定の考え方

温室効果ガスを1年間に1%ずつ、3年間で3%削減することを目標とします。

- 備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
- 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
- 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
ガス使用量削減	<ul style="list-style-type: none"> ・蒸気漏れを無くす ・焼成炉の熱漏れ改善 ・配管、バルブの保温を徹底する ・スチームトラップ点検 ・バルブ開閉時間の徹底 ・炉内バーナーの燃焼本数を制御する 	
電気使用量の削減 (照明、設備関係)	<ul style="list-style-type: none"> ・照明の消灯の徹底と消灯しやすくし、こまめに消灯する ・機械の運転工程効率化する ・デマンドコントローラーによる負荷の平準化 	
電気使用量の削減 (空調機)	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機器の管理 設定温度 冷房24℃以上、暖房20℃以下 ・空調機フィルターの定期清掃(春、秋 年2回) 	
電気使用量の削減 (主にコンプレッサー等のエアー)	<ul style="list-style-type: none"> ・エアー漏れを無くす。 ・エアー漏れの調査を定期的に行い、処置を行う。 	
電気使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・ポンプの流量調整をインバーター化 ・攪拌機のインバーター化、時間制御化 	
廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別、リサイクル化し廃棄物を減らす。 	
見える化	<ul style="list-style-type: none"> ・各職場電気メーター取り付け ・各エネルギー使用量の見えるかを進める 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネル導入の検討 	

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	%

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

--

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

「環境保全の日」の掲示をおこない、従業員への周知をおこなう。
毎月8日に帰宅時の消灯・設備電源OFFの確認を実施する。